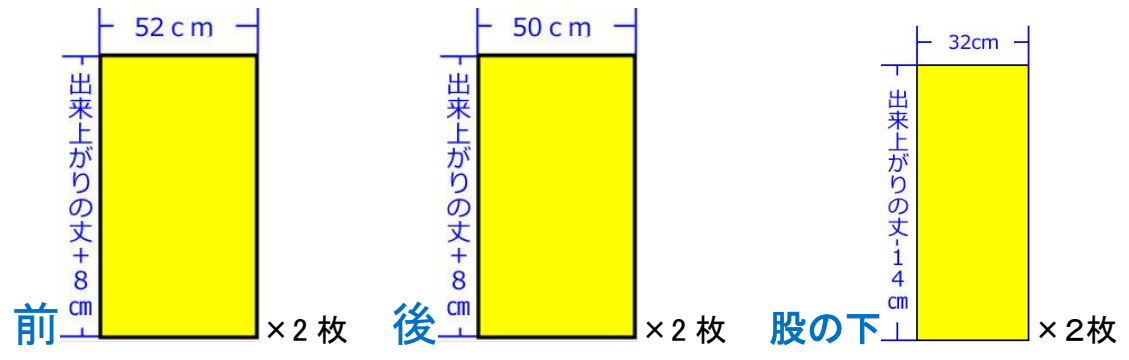


貼り合わせて型紙を作ってください。



まず布を左のように長方形に切ります。

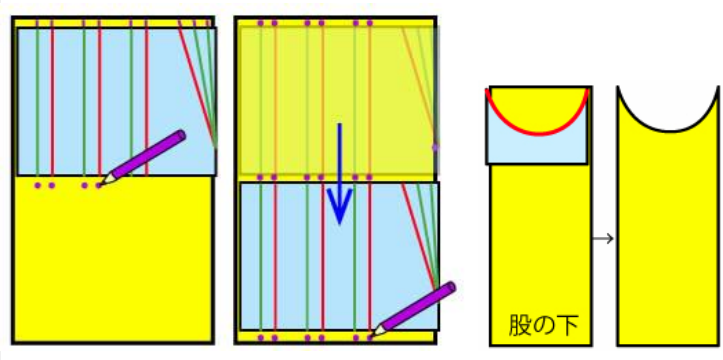
A=出来上がりの丈。

前、横・52cm、縦・A+8cm、2枚。後、横・50cm、縦・A+8cm、2枚。

こういうまっすぐに切るときは、かえって型紙があるとぐにやぐにやになりやすいので、定規で線を引いたほうが綺麗になります。

股下も2枚作ります。

股下、横・32cm、縦・A-12cm、2枚。

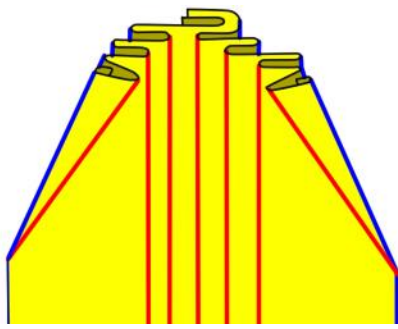


一見型紙は短すぎて不安になるかもしれませんが、切れている部分からはまっすぐなので、図のように型紙をずらして印をつけると良いです。
 布の表に型紙を置いて印をつけると左右混乱しなくてすみます。
 きりじつけは縫う前の下準備で詳しく説明しています。



しつけ糸を使って印をつけると裏と表の両方から印が見えるので折る時に便利です。

このとき山折と谷折で色を変えておくと間違えにくくてオススメですよ。

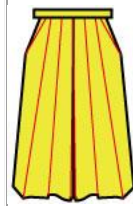


アイロンをかけるときに、折り目強力をかけておくと、作った方がいいけどイベント会場に持っていったときには、ヒダが取れてくしゃくしゃ!というのが防げます。
これをしていないと、着ているうちにヒダが消えてしまいます。



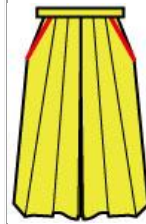
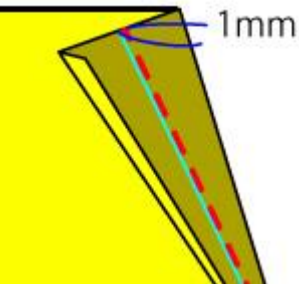
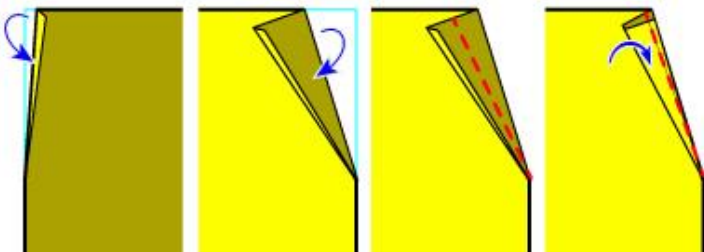
前側のヒダの取り方

左身頃と右身頃、
折り方が違うので要注意!



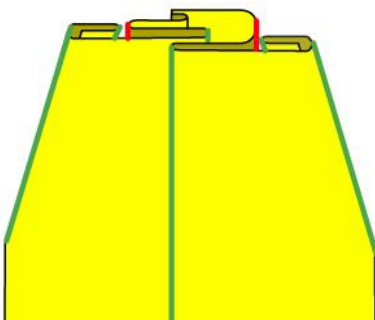
前

ひだを折ってください。
実際に型紙を一度折りたたんでみると理解しやすくなりますよ。
それをみながら折ると失敗しにくいです。
アイロンをかけて型をしっかり付けてください。



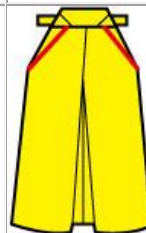
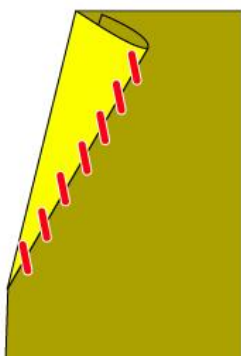
斜めの折り目を**笹ヒダ**というそうです。
(1) 脇側の折り目を裏に折ってください。
(2) 一番内側の斜め折り線から表に折り返して下さい。

(3) 脇から2本目の折り線の1mmほど脇側を縫って下さい。
(4) 2本目の折り線で脇に向かって折り、端を縫って下さい。
(4) 本当の和裁だと**まつり縫い**といって表に出ないように縫っていくのですが、コスプレ用ですのでミシンで端から2~5mmのところを縫っても良い

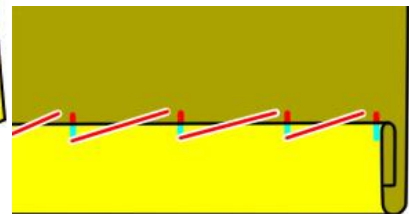


後

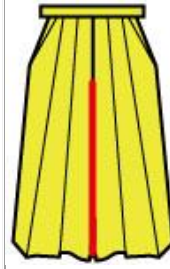
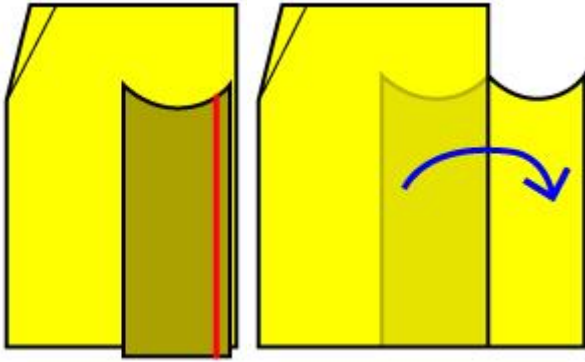
型紙の山折谷折を確認しながら、アイロンで折ってください。



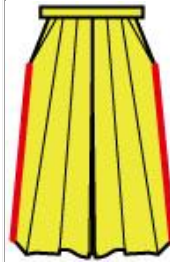
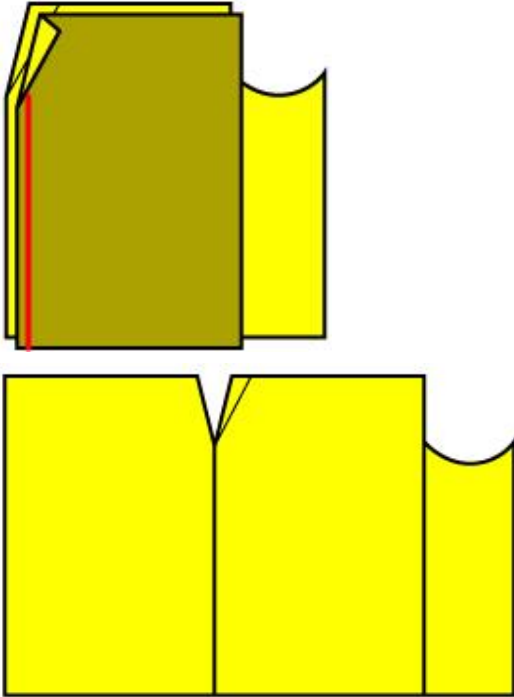
斜めのヒダの所は、裏へ斜めに三つ折りして、裏側から**まつり縫い**する。



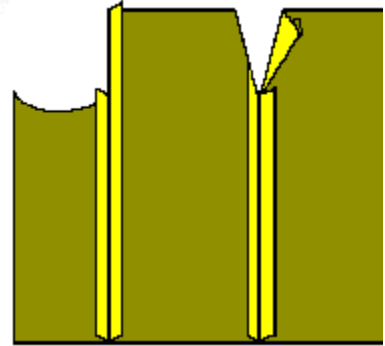
まつり縫い



前身頃に股下を表が内側になるように重ねて縫って下さい。
股下を縫い付けたほうが前中心になります。
この時点で一度アイロンをかけておくと綺麗です。

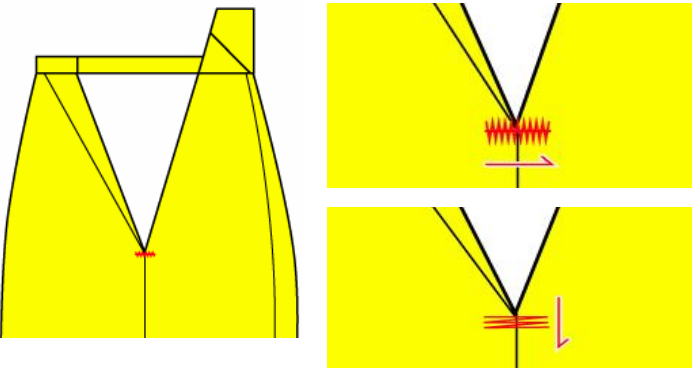


前身頃と後身頃の脇(斜めの笹ひだのあるほう)を縫って下さい
(見にくくなるので、たたんだヒダは省いています)

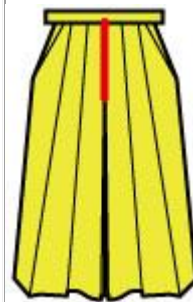
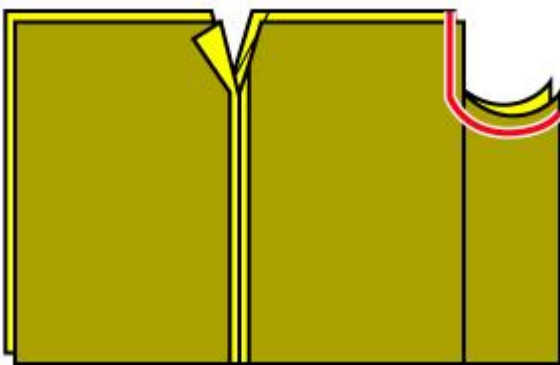


裏から見たところ。

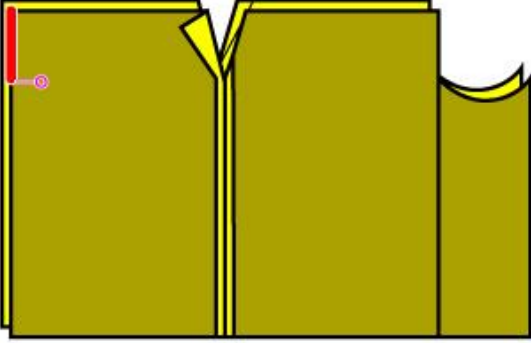
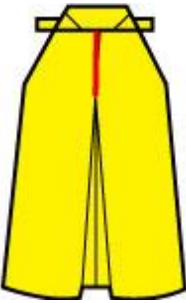
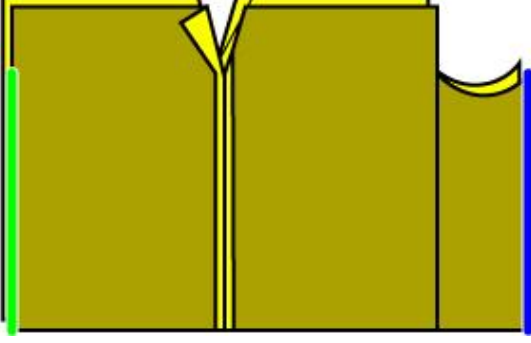
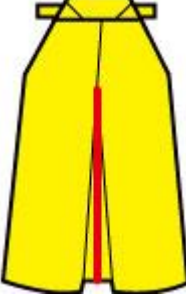
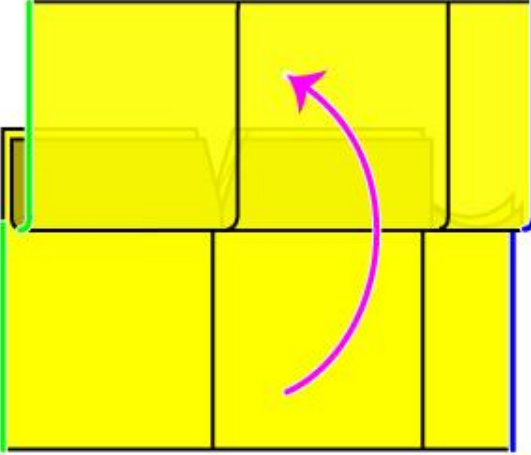
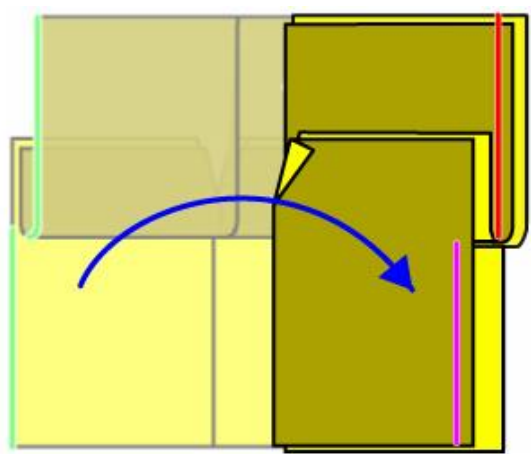
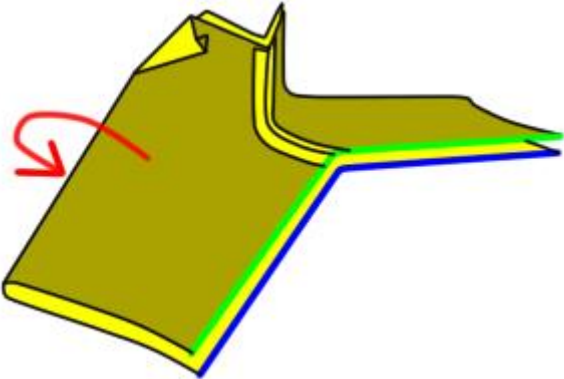
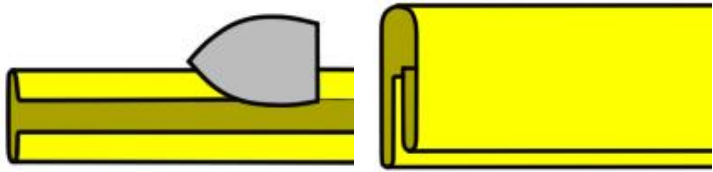
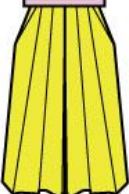
広げて表から見たところ

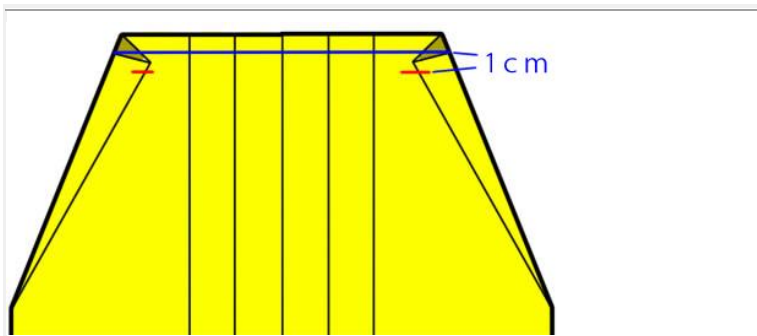
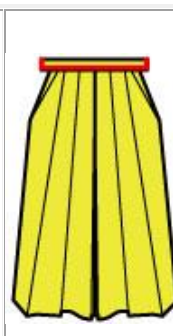
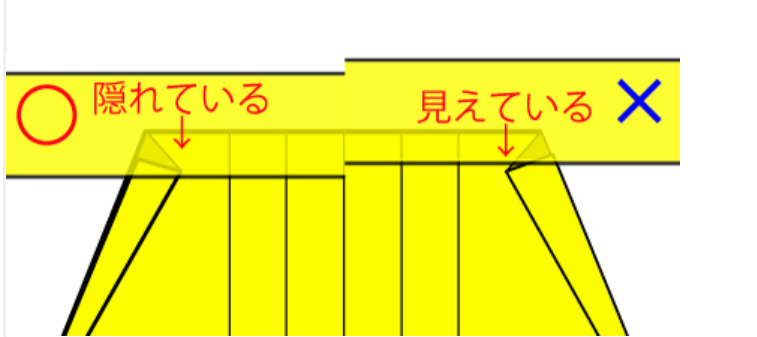
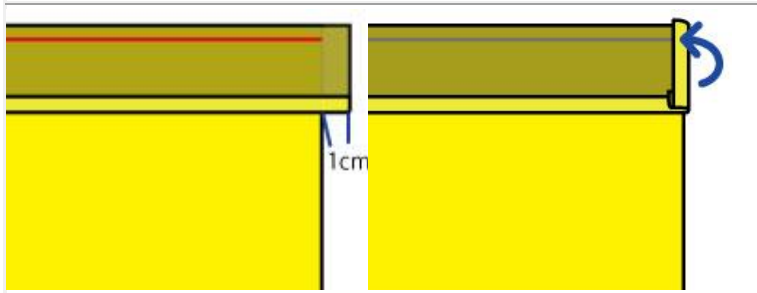
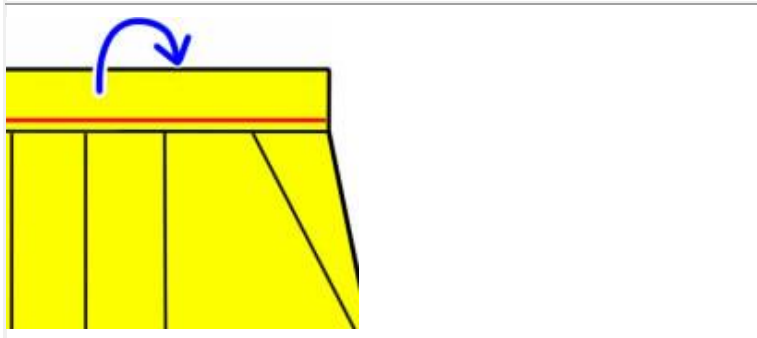
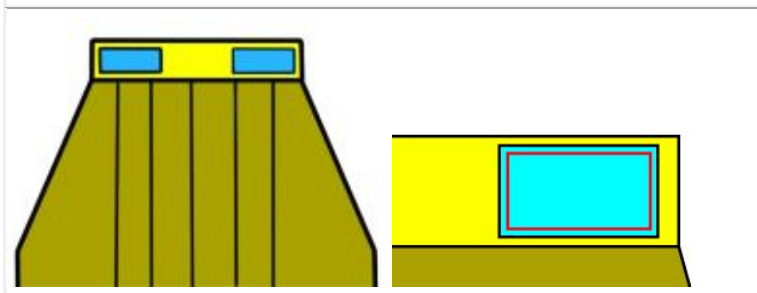
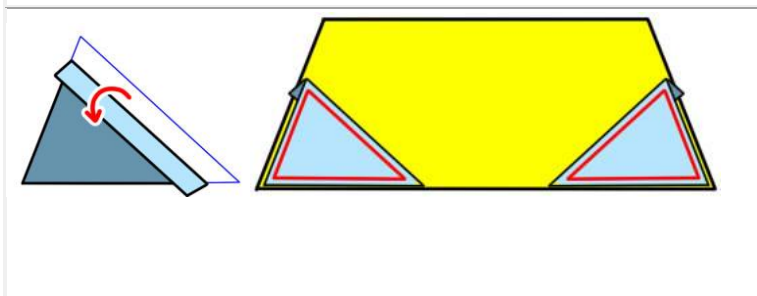
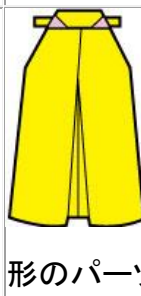



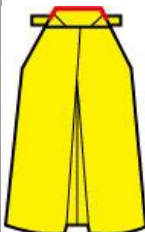
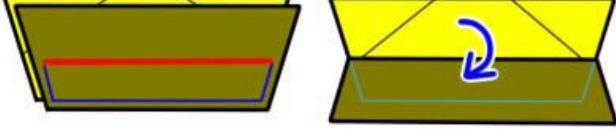
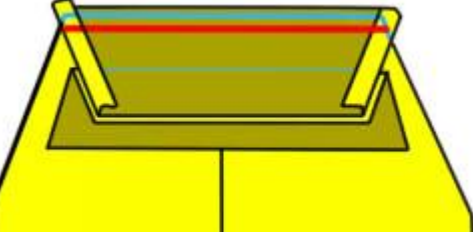
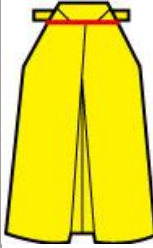
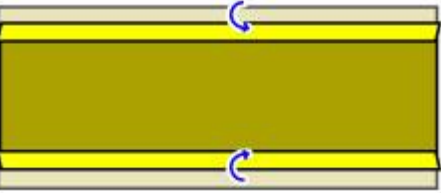
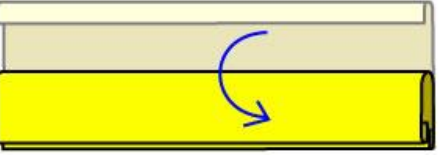
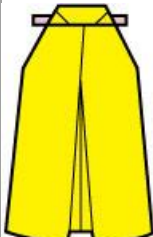
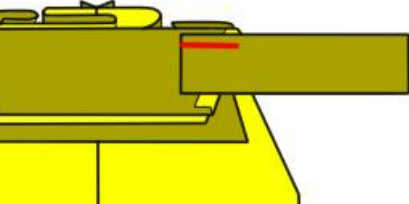
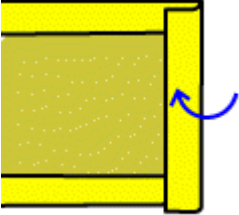
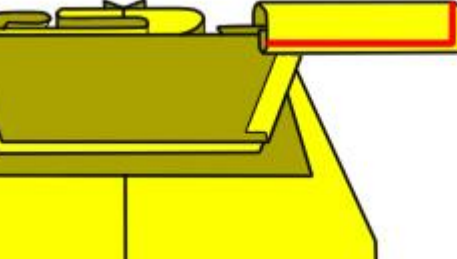
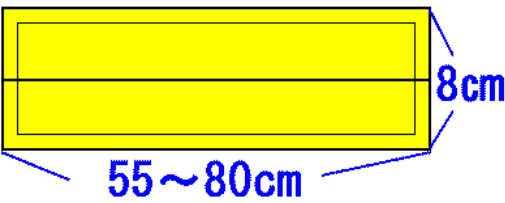
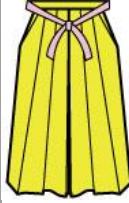
まっすぐ縫っただけだと脇が破れやすいので、縫い合わせた一番上のところを縫って補強します。
ミシンのジグザグ縫いを選択し、縫い目の長さを短くして縫って下さい
横幅の狭いジグザグの場合は上の図のように。
横幅の広いジグザグができるなら上下どちらでも大丈夫です。

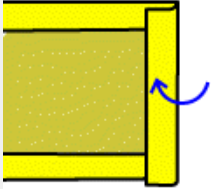

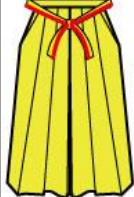
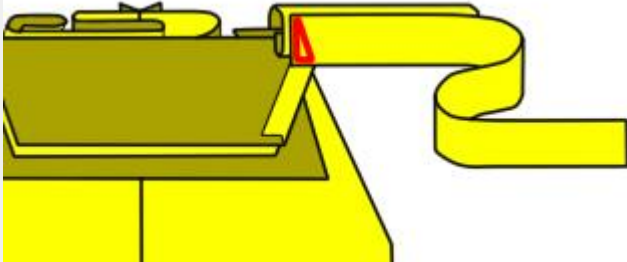
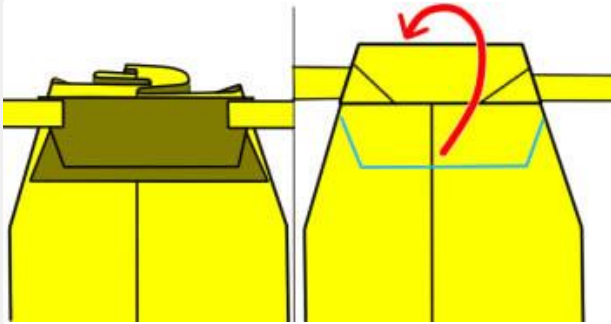
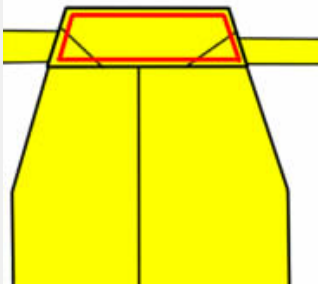
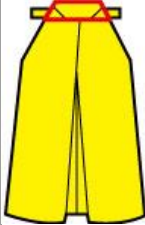
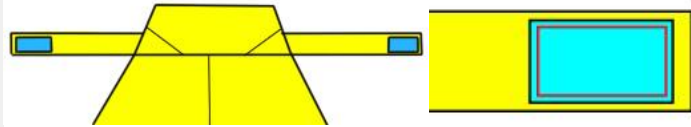


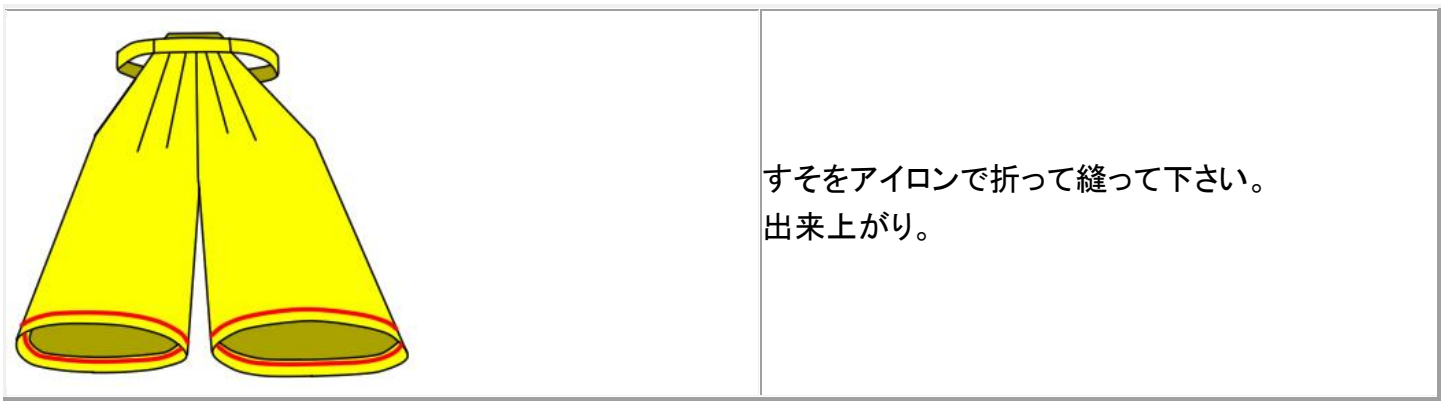
左右の袴を**中表**に重ね、前中心の股下を縫って下さい。

| | |
|--|---|
|  |  <p>後ろ側の股上を縫って下さい。 上端から型紙の印の所まで縫って下さい。</p> |
|  |  <p>股下部分(青い所)を左右に広げ てください(下図参照)</p> |
|  | <p>上のほうのはかまを開いてください。</p> |
|  |  <p>開いたまま半分に折ってください。 右足左足ごとに縫ってください</p> |
|  |  <p>前のウエストベルトを折って下さい。 ウエストベルトはあらかじめアイロンで縫い代を裏側に折って下さい。 半分に折り目を付けてください。</p> |

| | |
|--|--|
|  |  <p>ヒダを折ると両端の笹ヒダの上側が内側に入るので表に出ないようにするために、笹ヒダの下がった所から2~4mm下がった所に印をつけてください 赤線そこから1cmの所に線を引いてください。</p> |
|  | <p>この線に帯の端を合わせて1cmの縫い目で縫うと表から笹ヒダの端が見えません 印から上の縫い代が芯がわりになります。 縫い代が帯の幅より広い場合は切ってください。</p> |
|  | <p>表を上にした前身頃に裏を上にした帯を重ねて下さい。 縫い代1cmはみださせて下さい。 両端の縫い代を裏に折ってください</p> |
|  | <p>帯を折り目で半分に折って前の袴の上の部分を含んで端から5mmの所を縫ってください。</p> |
|  | <p>コスプレ衣装などで袴のウエストが隠れるデザインならば前を短く作りマジックテープで止めるように作ると着替えが楽です。 まえみごろの帯の裏側にマジックテープ(柔らかいほう)を縫って下さい。</p> |
|  |  <p>三角形の布の中心側を1cm裏へ折ってください。 台形のパーツの上に重ねて端から2~3mmの所を縫って下さい。 (表側になる分だけ裏に隠れる方の台形のパーツにはつけないで良い)</p> |

| | |
|--|---|
|  |  <p>表同士が内側になるように2枚をあわせ縫う。 表返す。</p> |
|   <p>← △がついている 方をつける</p> |  <p>上下を逆にする。 裏(三角形が無いもの)を下によける。 後身頃と表側だけ、内側同士が表になるように重ね縫う。 このとき縫い付けるほうの左右の縫い代を内側に向け折って下さい。</p> |
|   |  <p>後の帯も折って下さい。</p> |
|   | <p>帯を裏を上にして背板のうに重ねて縫って下さい。 帯の端を裏に折って下さい</p> |
|  | <p>ベルトを二つ折りして下さい。 端から5mmの所を縫って下さい。</p> |
|  |  <p>前で結べる長い帯もつける場合 縦8cm横55~80cmの長方形を2枚切ってください。 長めに切って結び紐の結び方や腰囲のサイズによって長さが変わると思うので、袴に縫い付けるときに片端を切り落として調整して下さい</p> |

| | |
|--|--|
|  | <p>他の帯と同様にアイロンで縫い代を折り、半分に折利目を付けてください。 帯の端を裏に折ってください</p> |
|  | <p> 帯を二つ折りにし、端から3~5mmのところをミシンで縫って下さい。</p> |
|  | <p>短い帯の上に長い紐を重ねて下さい。 中心側の隠れる部分だけを縫って固定して下さい。 ※生地にもよりますが、長い紐までつけるとかなり厚くなりますので、この場合は手縫いで縫うことをおすすめします</p> |
|  | <p>背板を帯に挟み込むようにかぶせるてください。</p> |
|  | <p> 端から2~5mmのところを縫って下さい。</p> |
|  | <p>短い帯の表側にマジックテープ(硬いほう)をつけてください。</p> |



必要な道具

表生地幅によって変わるので10分の1サイズで確認してください

接着芯 (36cm×12cm 2枚)、マジックテープ (縦横2cm×5cm 2片)、糸

オススメの生地

厚すぎない張りのあるツイル

かばんなどにつめて持っていくコスプレ衣装等の場合は、シワの入りにくい原材料がポリエステルの方がいいと思います。

柔らかいツイルは折り目をつけるのが大変なので避けたほうが無難です。

ブロード

薄手で少し張りのある生地です。

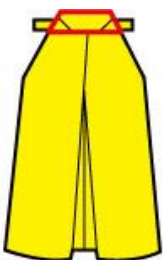
色、柄の多い生地です。

ただし薄い色の場合透けやすいので裏地をつけるか厚いものを選ぶのがいいでしょう。

薄いのでペラペラしてしまいやすいので、洗濯のり (スプレーキーピングなど) をかけて張りを出してから使うといいと思います。

シャンタン

横糸が太くてところどころ節があり素朴な雰囲気がありながら光沢があったりするのでパリッとしていながらやさしくて上品という不思議な風合いです。しわになりにくいポリエステルのものもあります



接着芯

張りのある不織布タイプが向いています。

接着芯がない場合は、厚みのある紙やプラスチックを、この後のパーツより厚み分小さく切って中に入れてください。

洗濯をしたいなら、接着芯が手入れも楽でいいと思います